

海南高等学校

実施日時	令和元年 12月 6日 (金)
参加者	生徒587名、教職員35名 計622名
実施内容	避難訓練、炊き出し・配膳訓練、応急手当訓練、地震体験 等

ねらい

- 1、自立的に安全な行動ができる態度や能力を身に付ける。
- 2、地域の防災を担うリーダーの育成を図る。

主なプログラム

- 1、(全校生徒) 避難訓練
- 2、(1学年) 炊き出し・配膳訓練
マイトイレ作り
- 3、(2学年) 防災実技講習、防災講座、体験 等

概要

1、避難訓練

全校生徒がホームルーム教室での授業中に緊急地震速報が発令されたという想定のもと、シェイクアウト訓練を行い、その後授業担当者が今回の避難場所であるグラウンドへ誘導した。全員の避難完了を確認した後、海南市消防本部職員が訓練についての講評を行った。



2、炊き出し・配膳訓練、マイトイレ作り

1学年全員が生徒ホールに移動し、湯を使ってアルファ化米の炊き出しを行った。アルファ化米の箱には小分け用の容器が入っていたが使用せず、災害時のラップの使い方の紹介を兼ね、各自の手の上にボランティア委員がラップを置き、その上に直接配膳し、おにぎりにして試食した。

その後、ボランティア委員の指導のもと、新聞紙からマイトイレを作成した。



3、防災実技講習、防災講座、体験 等

2学年全員が体育館で、生徒会が運営・進行を行い、下記8ブースから3ブースに参加した。

- ① 救急救命 (海南市消防本部ブース)
- ② 災害救護 (日赤和歌山県支部ブース)
- ③ 防災アプリ (県防災企画課ブース)
- ④ 東日本大震災から学ぶ
(海南市社会福祉協議会ブース)
- ⑤ 海南高校が避難所になったら (市役所ブース)
- ⑥ 災害シミュレーション
(県教育委員会ブース)
- ⑦ 防災グッズ (高校生ブース)
- ⑧ 地震体験&身を守る方法
(起震車&高校生ブース)



参加者感想文

- ・新聞紙で簡易トイレができるとは知らなかった。身近にあるものから便利な物ができないか、日頃から考えていきたい。
- ・被災し避難した時には、高校生がボランティアとして動くべき存在であることがわかった。大きな行動ではなく自分ができることを常に考えて、小さな行動を起こせるような人間になりたいと思う。
- ・防災のための非常用品の大切さを改めて知った。ラップは非常用に向かないと思っていたが、様々な使い道があるのを知ることができた。
- ・生徒会長の挨拶にもあったが、震災に対して真剣に自分のこととして考えることが必要であり、日頃から備えておく防災が大切だと思った。
- ・自分の住んでいる場所のハザードマップを見て、避難場所や危ない場所を確認しようと思った。今回の防災スクールはいろんなことを考える良い機会となった。
- ・今回の防災スクールはとても有意義な機会であった。南海トラフ地震が起こるのも近い未来かも

しれない。どれだけ冷静に対応できるかが重要である。今回の体験から学んだことを少しでも役に立てるように頑張りたい。

成果と課題

【成果】

- ・避難訓練では、生徒からはあまり緊張感は感じられなかったが、騒ぐことなくスムーズに避難場所へ移動することができた。また、避難経路の見直しを行い、渡り廊下を使用しない経路に変更した。
- ・1学年では、アルファ化米の試食とマイトイレ作りに主体的に取り組む生徒が多く、実際に災害が起こった時にはボランティアで地域に貢献したいという気持ちが芽生えた生徒も見受けられた。
- ・2学年では、関係機関の協力のもと今年度初めて8ブースの体験型プログラムを導入した。生徒会の運営・進行もあり、主体的に取り組む生徒が多かった。
- ・今年度から全校生徒が避難訓練を行うこととし、防災意識の向上へつなげることができた。

【課題】

- ・1学年では、配膳が思った以上に時間がかかった。誘導や配膳を行うボランティア委員に対して事前指導の回数をさらに増やす必要がある。
- ・全体の課題としては、近い将来に起こるとされる南海トラフ地震で大きな津波の発生が予想されることから、校舎の上層階への避難訓練も計画する必要がある。